

力目夕刊

▲カーエン氏夫妻(米人) 九日朝入京  
ルヘ

▲渡邊通譯官 八日午前七時半瑞興上  
宣成寺前通面見安主徒二頁二十名)















僅域重生軍

京  
城  
日  
報

仁川期米  
第二版

上知二十錢を仰し一類と大體草裡に強硬の  
成行を示して該會引跡十九錢二十錢にて大に商  
内行はれたる

▲一變強硬

前日米秋田の成行  
を示したる後物

種族の折衝あると、兎角の露天益、深甚に立會  
 母に大商盛を見た。今後の波瀾益、大なる  
 のあらん

▲㊦大に賣る

今後勢同店より賣  
 りたる主數無二

總督を迎ふ

長谷川總督は、本日<sup>この日</sup>を以て京城に入り、其任所に就かむとす。官民手を額にし、其の來任を迎ふる斯日、南山の松翠愈々濃かなるを覺ゆ。

曩きに寺内伯の、内閣の首班に立ち、朝鮮を去り、長谷川伯の任ぜられて、朝鮮總督の印綬を帶ぶるに至るや、洵に後任克く其人を得て、朝鮮全土の官民、擧げて驩喜措く所を知らず。伯と朝鮮との關係は、其の如何に深厚なる、敢て説くを要せず、京城の街衢に長谷川町の名ある、以て知る可し。其人今總督として斯土に來り、斯民に泣む。因縁倍々深く、朝鮮の爲めに最も欣ぶべし。

惟ふに、朝鮮統治の宏謨は、洵に高遠なり。全土の安寧を保ち、群衆の福利を進め、帝國の丕基を鞏固にし、東洋の平和を維持する、任に統轄の職に在る總督の地位や、實に至重至大。今や政務の機關整備し、利用厚生の施設殆ど遺漏なく、窮民蘇息し、昭代の治化全土に洽被し、經營の基礎確定せり。然かも、世界的大戰亂は未だ終局の時を知らず、帝國の前途は倍々多事也。此間に在りて我が朝鮮は、其の經營既に礎地を做せりと雖も、我が大陸政策は、未だ其緒に就けるに過ぎず。朝鮮開發の今後は、更に多忙にして、官民の努力を要する、愈々大ならんとす。此時に際し長谷川伯は聖慮に依り、且つ優渥なる勅語を奉戴し、半島統治の重任に膺る。拓地極民の大事業、新總督を迎へて彌々其地歩を進むべきを信ず。

遮莫、總督の今や朝鮮に來る、其勞や想ふ可し。然かも其の老軀を捧げて政務に精勵せんとする、盡忠報國の赤誠に對しては、吾人は滿腔の敬意を以て、其の來任を壯とし、之を迎へずんばあらず。總督入京の日、茲に驪迎の辭を陳ず。

師元川谷長督總新

景の園道及び邸官るふ迎を督總と

▲能く賣る 我場本店より賣  
▲能く賣る 王鼓四千餘石に  
▲能く賣る 寺との事一面千餘石の買ありたりとの事  
▲能く賣る 我場本店より賣  
▲能く賣る 王鼓三千餘石に

▲奎能く買ふ  
上りたりとの事一面千餘石の賣ありたりとの事  
後池田店より買たる玉數五千餘石に

◎能く買ふ  
後池田店より買たる玉數五千餘石に

▲**現物界** 地租玄米十一圓九十錢より  
十二圓四錢迄差清玄米十二  
圓四十錢より七十錢迄同坪力十二圓六十錢迄差

九國七錢五出大豆八圓二十五錢處にて出來たり  
△茂場中限の二三圓六錢五錢六錢四錢平均  
△主銀金、六錢四十錢出赤高千八百五十石八牛  
原の十三圓十七錢六錢五錢六錢五錢六錢五錢四  
圓六錢六錢十六錢七錢六錢七錢六錢七錢六錢

出 來 高	安 館	高 館	止 館	換 館
六萬千七百石	十三萬四千錢	十三萬二千三百錢	十三萬二千三百錢	十三萬二千三百錢

一月限十二萬千四百五十石

良品は經濟なり  
 我社の製革は強靱にし  
 て舶來品を凌ぐ

歡 永登通 朝鮮皮革株式會社  
迎 京城南大門通 朝鮮皮革株式會社 販賣所  
電話 一〇八五

■ 我社の製革は堅牢にして  
耐久力に富む

■ 而して其價格は頗る低廉なり

歡 迎

三井物産株式會社

京城支店

歡

◆寶田石油株式會社代理店  
◆帝國麥酒株式會社代理店  
◆大日本鹽業株式會社代理店  
◆再製鹽製造販賣

辰 合名 會社 鈴木商店京城出張所  
電話長三九〇番、長二九二四番

仁川本町二丁目  
辰 仁川出張所  
電話長八三番、八五六番

迎

◆原鹽直輸入販賣

◆阿里山檜材鈔朝一手販賣

◆雜穀賣買

迎  
◆ 阿里山檜材 朝鮮 一手販賣







● 一等割増金貳千圓附  
● 初回くじびきは來年三月  
● 第六十  
● 五回勸業債券(四分五厘)賣出  
● 來る十二月十一日より二十五日まで  
● 日本勸業銀行及各地代理店、取扱店並に郵便局にて



